

◆【全国発信記事】静岡支部

新造船 「第八十八福久丸」 — 遠洋マグロはえ縄漁船 —

焼津港を出港

7月7日、焼津港から新造船「第八十八福久丸」(499トン)が出港した。

本船は、国の漁業構造改革総合対策事業「もうかる漁業」の支援を受け、三保造船所で建造された最新鋭の遠洋マグロはえ縄漁船。

新造船「第八十八福久丸」の特徴は居住区設備にある

本船の主な特徴は、かつての4人部屋を廃止し、船室は1人～2人部屋で、広めの居住空間が確保された点にある。さらに、遠洋航海中でも各人のスマートフォンを使って家族や友人とコミュニケーションがとれるようにインターネット環境を整えた。

村松静夫漁労長は「これから本船はミナミマグロの盛漁期を迎える南インド海域に向けて出漁するが、乗組員の安全第一を念頭にチームワークを大切にして操業していきたい」と抱負を語った。

出港式には中野弘道焼津市長も駆けつけ、乗組員の健康と安全航海を祈念するあいさつが述べられた後、乗組員の家族や関係者らが紙テープを握り見守るなか「第八十八福久丸」は南インド洋の漁場に向けて出港した。